

国語科「高校入試問題」から指導改善を考える

H28. 3. 25



先日、県立高校入試が行われました。生徒の国語の問題に対する反応は、どうだったでしょうか。



思ったほど難しくなかったわ。実力を発揮できたと思うわ。

時間がなくて、最後までできなかった。書く問題が難しかったな・・・



「全国学力・学習状況調査」や「福島県学力調査」の結果から考えると、今回の問題において、「できる」「できない」の大きな差が生まれるのは、以下の問題であると考えられます。



- 三 3 (2) 会話を踏まえて、四十字以内で書きなさい。
 - 四 3 書き出しに続けて三十字以内で書きなさい。
 - 四 6 場面を踏まえて、七十字以内で説明しなさい。
 - 五 6 七十字以内で説明しなさい。
 - 六 条件作文 百五十字以上、二百字以内でまとめること。
- ※ 詳しくは、実際の問題を参考にしてください。



このような、様々な条件が付いた記述型式の問題を解くためには、説明中心の講義形式の授業からの改善が必要だな・・・



書くことの基本として、「課題設定や取材」「構成」「記述」「推敲」という技能を身に付けさせることは重要です。しかし、それだけでは、先ほどの問題を解けるようにはなりません。以下のような力が必要になります。

問題を解くために必要な力

- 文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉えながら書く。
- 複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く。
- 文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く。 など



生徒の個人差が大きい上に、読む力も関連してくるわ。さらに、単元配当時間が限られていることを考えると活用力を高める指導は難しいわ。

指導の改善により活用力を高める（生徒一人一人の言語活動の充実を目指す）

- 単元の目標を達成するための最適な言語活動を位置付ける。
（言語活動と付けたい力がずれないように留意する。）
- 言語活動を進めていくことにより、課題が解決できるように授業を展開していく。
→ 単元のゴールが見えるように工夫する。
- 毎時間のめあては、焦点化し、系統的、螺旋的に指導していく。

わかるできる授業3（読むこと）

こちらも
参考に

わかるできる授業4（書くこと）

さらに、**定着確認シート**を活用しましょう。
大問一の中には、今回の入試問題に近い問題があります。そして、大問二は、毎回条件作文となっています。
生徒には、定着確認シートの重要性を認識させた上で、問題に取り組ませます。
一方、教師は「定着確認シート帳票ダウンロード」で個人データを活用し、一人一人の陥没点を追指導することにより、国語の学力が確実に身に付いていきます。

